

# ジグソーパズルを組み立てる

データセットというジグソーパズルで「欠けたピース」をつなぎ合わせることで、世界金融危機の全貌が明らかになる

Adelheid Burgi-Schmelz, Alfredo M. Leone

適切なデータの利用は、景気動向や経済事象を分析する際に極めて重要である。それがなければ、将来どのような方向に経済が向かうのかを予測することや、過去の経済事象がなぜそのような経緯を辿ったのかを分析することは、一面ではピースの一部が欠けており、そのため絵が完成しない状態でジグソーパズルを組み合わせるようなものである。「データ・ギャップ・イニシアティブ」はギャップの一部を埋め、世界中のエコノミストが使用するデータの質を高めるに資するはずである。

この取組みはG20グループの先進・新興市場国が主導しており、データ収集の強化を通じてデータギャップを埋めることに傾注している。これにはIMFが所管する経済金融部門のデータも含まれている。そして収集されたデータは世界的な経済金融危機、その要因、および採るべき対処策の明確化に役立つ。

さらにデータ・ギャップ・イニシアティブは、広範な経済金融統計に関する国際機関の共同作業の橋渡し役を担って、各機関の相対的な強みを活かしながら世界的な統計分野における数多くの盲点をなくしている。こうした国際機関間の協力と調整の強化によって、データ共有が改善され、取組みの重複の回避を通じて効率も上がり、加盟国側の報告負担も軽減された。

## 危機対応の連動

ほぼ4年にわたる作業の後、現行データセットを拡充する計画の準備が整い、G20の中には拡充策の一部を既に実行している国もある（「危機対応に資するデータ」（Data to the Rescue）F&D、2009年3月号」と「新しいデータの発見」（Finding New Data）F&D2010年9月の各号を参照）。他の領域でも大掛かりな作業が進行しており、これには世帯、金融機関と非金融会社、および政府から成る部門勘定；国際債券、国際株式、および国内証券に関する証券統計；および不動産価格が含まれる。金融システム上重要な金融機関に関する作業は現在、開発段階にある。

データ・ギャップ・イニシアティブが立ち上げられたわずか数週間の内に、「経済金融統計に関する関係機関グループ（the Inter-Agency Group on Economic and Financial Statistics (IAG)）」が設立され、「主要世界指標」のウェブサイト、www.principalglobalsindicators.orgを開設した。このウェブサイトはIAGの構成機関である国際決済銀行、欧州中央銀行、欧州連合統計局、議長を務める国際通貨基金、経済協力開発機構、国連、および世界銀行のデータを利用しておらず、データが公表されるとほとんど即座にこれを発信している。データ・ギャップ・イニシアティブはこのウェブサイトに新しいデータや増補したデータを導入し続けており、最近では四半期と年間のG20成長率の集計値などを追加した。

## さらなるデータ整備が重要

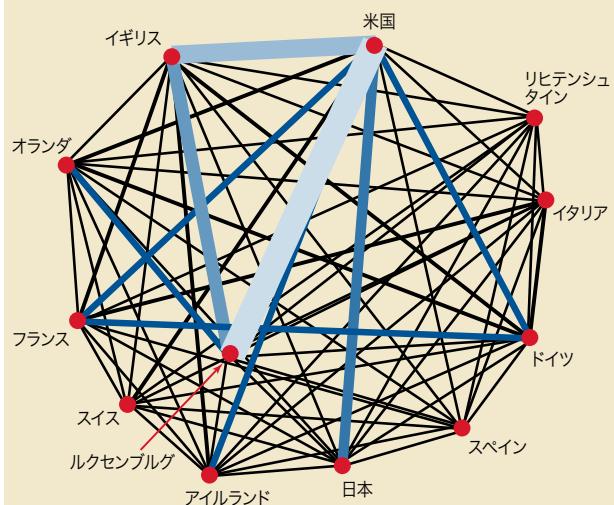
既存の統計枠組みを強化すること—調査対象国の拡大や情報精度の改善を含む—や新しいデータの開発を促進することを通じて、データ・ギャップ・イニシアティブはデータギャップを埋めて、国内や国境を越えた相互連結から生じる金融システム内のリスク増大の分析を容易にしている。

今や国々や産業セクターは相互に強く結び付いているため、そうしたつながりを辿り、経済事象がどこに影響を与えたのかを断定することは困難になっている。例えば、10年前に比べ銀行を経由する金融活動の割合が大きく下がったことから、金融危機のほぼ半分は隠されたままの状態にある。従来から「危機」とは主に銀行の「危機」を指す（図を参照）。しかし、いわゆる「影の金融システム」を通じた危機は一層大きくて異質なものである可能性がある。ノンバンクの金融機関と非金融

## 相互に結び付いた世界

金融の面では米国、イギリス、およびルクセンブルグ間のつながりが特に強い。

（他の国々との結び付きが最も多い諸国）



出典：リッパー（トムソン・ロイター）；およびIMFスタッフによる算出。

注：太線が諸国の中でも危険が高いことを示す。

会社に関するもっと詳しい情報を得て、銀行の統計を補完しなければならない緊急性が増している。その重要性は急速に高まっているが、金融システム安定の意味合いはまだ十分には理解されていない。

データ・ギャップ・イニシアティブのもう一つの目的は、様々な企業セクター間の経済取引を効果的に把握することにある。これによって政策分析に豊富な情報がもたらされるばかりではなく、経済に関する統計作業に対してデータをまとめるまでの優れた包括性も提供される。そのような枠組みを通して証券、政府財政、および国の対外資産負債残高といった分野を対象とする異なったデータセットを相互に結び付けることが可能となる。政府財政統計に関して言えば、全ての国際的組織によって収集されるデータに対して標準となる雛型がデータ・ギャップ・イニシアティブで作成され、これによって国がデータを報告することが容易になると同時に、様々な国のデータの互換性も改善されることになる。

## データの活用

金融危機が継続することで明らかとなった深刻なデータギャップによって、国際金融の安定を確保するには、適切なマクロ経済政策や金融政策を立案、実施、およびモニターする際に質の高い統計が必要であることが改めて強調された。従って、IMFが定期的なモニターを実施して対象国の経済や金融部門を分析する際にIMFに提出するデータの中に含めるべき、新規のデータセットが提案されていることは極めて当然のことである。

### 補強

SDDSプラスは9つの新しいデータカテゴリーを追加してSDDSを補強する。

データカテゴリー	SDDS	SDDS Plus
国内総生産;名目、実質、および関連価格	X	X
生産指數	X	X
部門別貸借対照表		X
労働市場	X	X
価格指數	X	X
一般政府活動		X
一般政府総債務残高		X
中央政府活動	X	X
中央政府債務残高	X	X
貯蓄法人調査	X	X
中央銀行調査	X	X
その他金融会社調査		X
金利	X	X
金融健全性指標		X
債券		X
株式市場	X	X
外貨準備高の通貨構成調査への参加		X
国際収支	X	X
外貨準備資産	X	X
外貨準備と外貨流動性に関する雛型	X	X
商品貿易	X	X
対外資産負債残高	X	X
証券投資残高共同調査への参加		X
直接投資共同調査への参加		X
対外債務	X	X
為替レート	X	X
付記;人口	X	X
出典: IMF		

この目的とも一致するが、2010年にIMFはデータ・ギャップ・イニシアティブに依拠しながらデータ基準の拡充を承認した。2010年時点での金融健全性指標は推奨項目になり、2014年までに四半期の対外資産負債残高は特別データ公表基準(SDDS)―経済金融データを一般に公表するためにIMFが定めた世界的な基準―に基づいて必須項目となる予定である。こうした段階的な措置に加えて、今年初めにIMFは新たにデータ公開基準の最上位に位置付けられるSDDSプラスを支持するという大きな措置を講じた。

SDDSプラスにはデータ・ギャップ・イニシアティブでの作業で不可欠とされたデータカテゴリーが加えられている。SDDSプラスに署名した国では、新しいカテゴリーが2019年までに必須項目になる。

### 協力が重要

データ・ギャップ・イニシアティブは、経済金融統計に関する国際組織と統計当局との協力において顕著な進展を達成した。IAGの四半期ごとの会合やテレビ会議は作業を進める上で非常に有益であり、政府高官が出席した近年の年次大会はデータ・ギャップ・イニシアティブに関するG20へ提出するIMFと金融安定理事会の年次報告書へ重要な情報を提供した。

2010–11年において、IMFスタッフはG20諸国を訪問して、経済金融データの収集や国際組織への提出について議論した。2012年にメキシコ、トルコ、フランス、および中国の4地域で開かれた会議では、データ・ギャップ・イニシアティブが特定したギャップを埋める取組みでいかに進展を遂げるかという点に関心が集まった。会議の参加者が述べたとおり、「マクロ経済の統計を作成し利用している全ての関係当局間での調整を図る上でデータ・ギャップ・イニシアティブは有用である」。換言すれば、我々は一丸となっている。これは小さな変革である。しかし、全ての変革同様、重要な問題は変革を続けてさらに有益な段階へ導くことにある。

### 具体化

これまでにデータ・ギャップ・イニシアティブが上げた成果は、依然として残っている課題に対処するための確たる基盤として機能している。そうした課題には部門別勘定の拡充;影の金融システムと金融会社や非金融会社の国境を越えたポジションとフローの補足と当該データの改善;およびテールリスク、総レバレッジ、満期上のミスマッチなどの金融システムリスクの主要指標に関する開発作業の完了が含まれる。また、金融システム上重要な金融機関に関するデータを関係する公的機関が共有するための作業が大量に積み残されている。

こういった作業をさらに進展させる努力が必要であり、歩みを止める時間などない。事実、IMFは加盟国を支援するための技術援助や訓練への取組みを強化して、データ・ギャップ・イニシアティブで生み出された便益を全ての加盟国に根付かせようとしている。世界規模で何が起こっているか明らかになるだろう。 ■

アーデルハイト・バージ=シュメルズはIMF統計局のディレクターであり、アルフレード・M・レオーネは同局副ディレクターである。